

スーパーコンピューティング技術産業応用協議会 平成 25 年度事業活動概要報告

〈平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日〉

2013 年度

I. 協議会全体事業活動報告

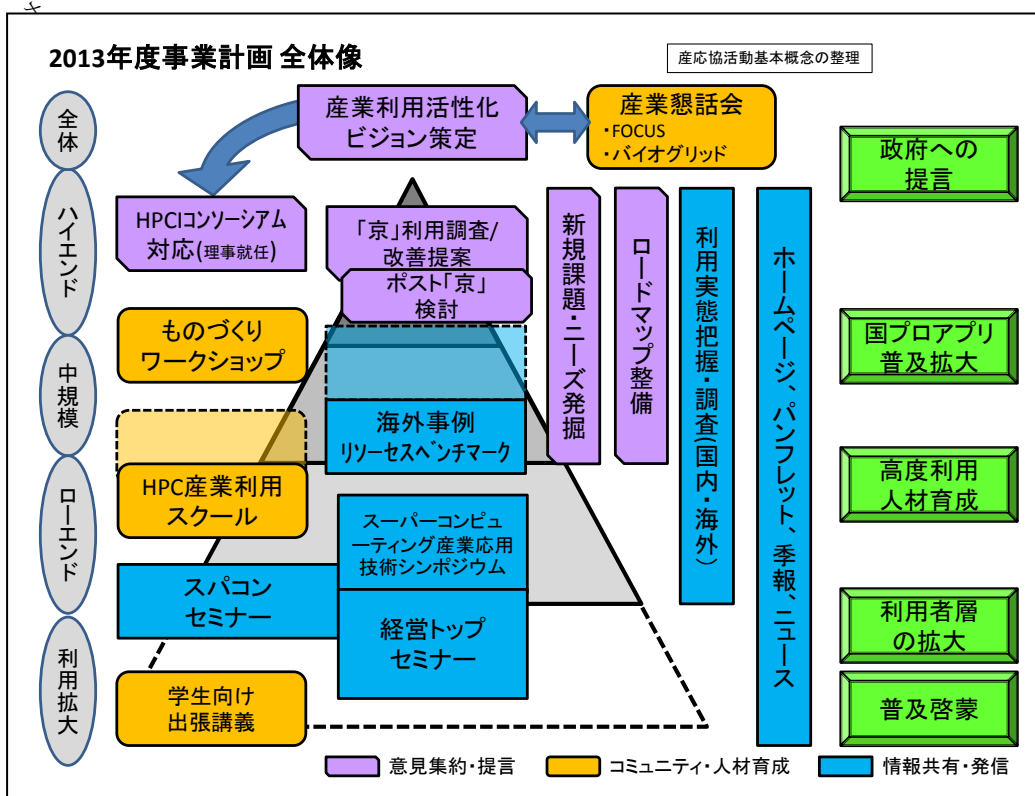
0. 活動成果と提言

・新体制による事業活動の開始

スーパーコンピュータ技術産業応用協議会（産応協）は、設立 8 年目に当たり活動経過と成果を再評価し、さらに取り巻く新しい環境変化に合わせた今後のあり方、運営とその体制等を検討した結果、設立当初の活動趣旨の再確認を踏まえつつ、活動の活性化と運営の安定化を目指した新体制を構築することとなった。特に本会の運営に当たっては、趣旨に賛同する企業からなる活動基盤の強化を図り、産業界のユーザ・コミュニティを代表する活動を積極的に展開した。

・2013 年度事業活動の全体像の整理

産業界および産応協を取り巻く HPC 利用環境の変化と課題等について、本年度の活動全体像を再認識/再整理し、諸活動相互の関連性の明確化と情報の共有化を進めた。産応協では、「京」を利用するような最先端のユーザから、シミュレーションを始めればかりの初心者まで、幅広い層を対象に様々な活動を展開している。特に「意見集約・提言活動」に関するもの、「コミュニティ・人材育成」、また「情報共有・情報発信」を、取り組みの着眼点とした。これらの活動を通じて、ユーザ企業が主体的に、「政府等への提言活動」、「国プロアプリ普及拡大」「高度利用人材育成」「利用者層の拡大・普及啓発」を計画し、実施することのできる体制を整えた。



来のさらに、スーパーコンピューティングのあり方(将来計算資源の整備並びに推進体制)の検討を進め、ポスト「京」の実現に向けた対応等について、活動の全体像の中で議論を行い、産業界の意見/要望を整理した。

• 中間報告パブコメに際して産業界からの要望提案：「今後のHPCI計画のあり方に関する検討ワーキンググループ」中間報告(案)に対する意見書の提出

(2013/6/12)

背景として、文部科学省研究振興局では、今後10年程度を見据えた我が国のHPCI計画推進のあり方を検討するため、平成24年2月HPCI計画推進委員会のもとに「今後のHPCI計画推進のあり方に関する検討ワーキンググループ」を設置し、調査検討を進めていたが、その中間報告をとりまとめるに当たり意見募集(5/14)があり、産応協として、このパブコメに際して産業界における今後の利活用推進を考えての要望・意見を提出した。

• 産業界におけるスパコン利活用の情報発信

我が国の国家プロジェクトである「京」スパコンの運用開始に伴い、産業界における利活用の実態と課題等について、関係分野の協力を得つつ、自民党スパコン議連並びに文部科学省HPCIの将来のあり方WGでのヒアリングに対応し、HPCIコンソーシアム産業利用との意見交換を展開したほか、関係する機関・団体の連携によるシンポジウム開催を通じて、産業界における利活用の啓発と課題に関する情報発信を推進した。

• 最終報告書に対する産業界からの意見提案(201312/21)

将来のスーパーコンピューティングのあり方についての提言 - 最終報告(案)に関して、産業利用の拡大の観点から、「アプリケーション開発・使用支援のあり方」、「産業利用の振興」、「さらなる将来に向けて」の各項目等に対する産業界の利活用を企図した、より具体的な意見提案を行った。

• 海外調査からみた産業界からの提言

新生産応協における活動指針策定に資するため、RIST(一般財団法人高度情報科学技術研究機構)と共同事業で国内外の産業界におけるスーパーコンピュータの活用に関する調査を実施し、①現状「京」を中心とするHPCIの運用に対する要望、②HPCの現状と課題、③推進計画に対する提言等を取りまとめた。さらに平成26年度事業活動に成果を反映するとともに、関係機関との連携を図り、課題解消に向けた新たな展開について協業を積極的に推進することとした。

• イノベーションの啓発と出口戦略構築への挑戦

新生・産応協は、平成25年度で取り上げた課題等について、引き続き平成26年度においても活動目標の整理を行いつつ実施する。加えて、スーパーコンピューティングが社会的インフラとして、新たな産業連関構造の確立を包摂した我が国経済の持続的発展に繋がるビジョン策定/ロードマップ整備/新規テーマ提案を実施する。さらに、具体的な施策モデル利活用課題の研究推進(戦略的ソフトウェア開発推進体制の整備、中小企業シミュレーション活用・人材育成施策の推進)等の活動を継続して、今後のイノベーションの啓発に努め、出口戦略を探索、整理することとした。

II.活動概要報告

平成 25 年度の事業活動では、新生・産応協の体制のもとで産業界からの情報発信を行い、特に正会員に対しては会費に見合った活動成果の創出を旨とした。このため、新体制の中では、企画委員会のもとで実行委員会が具体的な活動の推進ととりまとめを行った。

事業活動は、従来からの継続事業としての充実を図るとともに、新生・産応協として新規事業の課題を取り上げて、ニーズに見合った情報収集と共有化を図るとともに、今後の利活用に対する産業界の意見を積極的に関係機関に対して情報発信を行った。

[継続事業] コミュニティ・人材育成と普及啓発

1. スパコンセミナー開催(年 3 回)(事例発表/異業種交流/ロードマップ構築)

第 26 回:「燃料電池」2013/7/25

第 27 回:「創薬」2013/9/12

第 28 回「ビッグデータ」2014/2/20

2. HPC ものづくりワークショップ開催(ソフトウェア開発プロユーズ層の人材交流)

第 1 回:2013/11/29

3. HPC 産業利用スクールの開講

-オータムスクール 2013:第 2 回 2013/10/18-19

「招聘講師、産応協委員による講座と参加者も交えた座談会。「HPC 推進戦略」「産業利用推進」

-京特別コース:第 2 回 2014/1/15

「京」を取り巻く環境 HPCI の展開などについて、講師・企業、チューターとの疑問解消討議を実施。

受験者が社内に持ち帰って伝承者となるようなカリキュラム。

-実践コース<反応流体>:第 1 回 2014/3/25-26

先端的シミュレーション技術や計算環境活用のスキル取得。

4. シンポジウム開催(産業界からの活用技術の啓発に伴う要望、提言報告)

第 6 回スーパーコンピューティング技術産業応用シンポジウム:2013/12/18

[新規事業] 意見集約・提言、情報共有・発信

1. 国内産業応用に関する「ガイド」、「手引き」等による啓発

⇒HPC 産業利用スクール第 2 回京特別コース開講<2014/1/15>

・海外における産業応用に関する現状把握と評価分析(要望提案)

・国内外の産業応用事例の収集と事例集の発行・・スクール/セミナー開催等

⇒RIST と共同事業による海外訪問調査の実施(国内海外対比による対応)

・米国ヒアリング:2013/11 SC13 (INCITE,XSEDE)

・欧州訪問調査:2014/2/2-11(PRACE,HLRS,

Hartree Centre,CERFACS,AirBus,TERATEC/CCRT)

2. HPCI コンソーシアムの情報共有

⇒HPCI コンソーシアムへの入会、代表理事の登録参加

・HPCI コンソーシアムへの参加、各種研究機関との連携サポート

・国家プロジェクトの活動把握と産業界の要望提案

・産業利用活性化への対応と協調

3. 新規課題の発掘と情報発信

(1)産業利用ニーズ分析と対応策

⇒産応協 HPC 利活用実態調査アンケート調査の実施と結果の反映

(2)産業利用活性化のビジョン策定/産業応用ロードマップの整備

⇒海外調査による現状把握、関連情報の共有化

4. 体制モデル新構築の研究

(1)産業向け戦略的なシミュレーションソフトウェアの利活用モデル調査

⇒関係者への個別ヒアリング調査実施・・・・計画実施概要の整備

(2)「人材育成、モデル事業の推進」の COCN 活動成果活動との連携

⇒関係者への周知活動により活動方針の見直しを進めた。